



# ふるコンだより

発行責任者  
宇部市ふるさとコンパニオンの会  
会長 脇 彌生

平成から令和へ、人それぞれですが、何が違って、何が変わらないのでしょうか。暑い夏を過ぎれば、変わらず色々な企画やイベントが例年通り行われます。てくてくまち歩きなどプログラムを各種取りそろえて準備しておりますので、ご期待下さい。10月に始まる第28回UBEビエンナーレ本展に向けてふるコンメンバーも情報収集に忙しくなる季節です。ひさびさにふるコンのメンバーが増えました。新メンバーの紹介も併せて前年度下半期を振り返ってみました。

## てくてくときわ公園 「石に刻まれた字から 宇部の歴史を知ろう」 1/19

常盤公園正面入口から9時30分出発。キーワードは「石」、「常盤公園の石は何を語ってくれるのでしょうか?」とテーマを絞ってみました。

本土手堤防の基礎は周辺の石(蛇紋岩)が使われていること。「荒手」は元禄期の先人達が強固な自然の岩盤を削り水路を築いていることをノミ跡を見てもらうことで、より身近に当時の苦勞を感じていただけただけではないでしょうか。



飛上がり地蔵尊

常盤堤東荒手石橋、飛び上がり地蔵尊、石炭記念館横の「蒸し杵の碑」「向田兄弟の碑」「常盤池の碑」も見ていただきました。字名である「石切場」と本土手基礎石との関連や常盤神社内の鳥居、灯笼などの石像物を案内しました。特に関心が高かった本土手周り、荒手水路と石橋については、詳しく説明しました。



常盤神社脇の周遊路

石碑文末の「石に刻みて朽ちることなく伝えたい」との先人の言葉とともに、常盤池の成りたちや本来の意味を知って、目からウロコ状態のお客様が少なからずいらしたようです。(上田)

## 「五穀豊穡を祈る 大森荒神社例祭」 2/28

早朝、今にも泣き出しそうな空に一発の花火が打ち上げられました。大森荒神社例祭を知らせる合図です。今年は平成最後という事もあり、正に令月の祭典に相応しい響だと感じました。



照明寺前で

ふるコンの行事としては4年ぶりになりますが、前回と変わらない40名近い方の参加を頂きました。今回は蓮光寺を出発し、上中野・大森の旧道を散策、途中「西宇部ふれあいセンター」で休憩をとり、大森荒神社に至るルートとしました。見所としては地蔵尊や神社、寺院そして宇部競馬場跡等を盛り込んでいます。



駐車場集まって準備体操  
創建以来、少なくとも22度の

元号と共に歩んできた大森荒神社ですが、末永く繋がっていく事を願ってやみません。(白石)

## てくてくまち歩き 「桜の トンネルをぬけたら目の前は海」 3/30

今から340年前、藩命により波止場が造られてから人々が移り住むようになった丸尾崎、その港の守護神として豊後の国から三神を勧請したのが丸尾三神社です。ここを起点に39名の参加者とともに柔らかな春の陽射しを浴びながらスタート。

まずは境内より丸尾港を望みながらその歴史に思いを馳せ、その後は古樹の生い茂る神社境内の周遊路を巡り次の大須賀遺跡へ。現在は住宅が建ち並び1800年前の古墳時代前期の人々の様子を偲ぶことは叶いませんが、出土した石棺や土器、さらに300余名の東岐波中学校の生徒が発掘作業に協力当時の写真を見て頂き、よすがとしました。



ニュージーランド病院記念碑前

田圃の畦道を進むと「県立こころの医療センター」の下に出ます。更に坂道を右手にとると、もう「山口宇部医療センター」です。広い敷地内をてくてくすると、いよいよ目的地。昨年同日は、ほぼ満開でしたが、今年は桜前線の足踏みで、僅かに四分咲き程度、些か残念ではありましたが「桜のトンネルを抜けると目の

前は海」のロケーションは矢張り素晴らしく、ご参加の皆様も一様に感激されたようでした。



桜のトンネルの向こうに周防灘旧山陽荘は戦後 2 年間、ニュージーランド軍に接收され「第 6 ニュージーランド総合病院」として使用されました。その時、軍の看護婦として働いていた現在 93 歳になられるニュージーランド女性 2 人が、昨年夏ここを訪れ「岐波の海の美しさが人生で一番輝かしいときだった」と述懐していた新聞記事や、進駐当時のニュージーランド軍の写真等を見て頂いた後、出発地の丸尾三神社へと向かいました。(岡部)

◆ふるコン新メンバーの紹介◆

昨春秋入会の 4 名が研修を終えて、4 月にデビューしました。即戦力として期待しています。

宇部市にとって「石炭」は郷土史を学ぶにあたって最も重要なキーワードです。明治から昭和にかけて石炭産業で栄えた宇部市には、今も水路や鉄道跡など石炭産業の発展に大きく関わった施設が残っています。その貴重な遺構の概要は現地の案内板やガイドの説明で知ることができます。イベントを通して参加された幅広い世代の方に「楽しかった」「為になった」と思われるようなガイドを目指したいと思います。(志馬 敬)

東京の雑踏を離れのんびりと過ごしたくて、故郷の宇部に 30 年ぶりに帰ってきました。

新聞で観光ボランティアガイドの募集を見て、軽い気持ちで応募し、研修を通して宇部市には紹介したい財産が数多くある事を知りました。いつの日か諸先輩会員の方の様に「緑と花と彫刻のま

ち・宇部市」のすばらしさを知り尽くし、おもてなしが出来る日を思いながら日々頑張っていきたいと思います。(波多野千恵子)

てくてくまち歩きに参加し、ボランティアガイドの皆さんの熱心さに感銘し、何かお手伝いできないかと思い入会しました。宇部で生まれ長年居住していながら何一つ知らない事に気付く、石碑や建造物にも目が向いて、学ぶ喜びさえ感じるようになりました。微力ながら、少しでも皆さんに協力できるように努力したいと思います。(藤本悦郎)

昨年春、海外を含む 16 回の転勤生活を終えて宇部に帰って来ました。先日古希を迎えてしまいましたが、生涯勉強の精神と旺盛な好奇心とを頼りに、大人の方には一緒に歩いて楽しかったと思っただけのような、また子供さんたちには将来につながる何かを感じ取ってもらえるような御案内ができるよう、研鑽に努めたいと思っております。どうぞよろしくお願いします。(山本雅史)

知っちよる？宇部のこんな話

今回は宇部セメント（現宇部三菱セメント株式会社）のお話です。

「有限の石炭から無限の工業へ」の渡辺祐策翁の意向を受けた俵田明社長のもと、中安閑一技師長（当時）が行った、結果的に斬新で理にかなった事業計画に驚かされます。セメント製品は売らなければなりません。宇部市内だけでは利益が期待できないのは当然で、国内各地の需要に応えなければなりません。

◆輸送手段は？方法は？

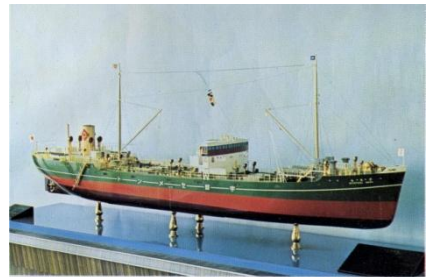
「バラ積みでいこう」中安技師長が提案しました。台風などのリスク要素を上げる役員達の反対を押し切って、セメントタンカー建造に踏み切ります。昭和 11 年、バラ積みセメントタンカー「清忠丸」が三菱神戸造船所で進水しました。

◆「清忠」って？

先代社長渡辺祐策の雅号なのでそうです。

◆なぜバラ積みなの？

袋詰めされたセメント袋で輸送するのが普通に思われますが、袋が破損すると売り物にならないというリスクがあります。バラで運ぶということは、現地に袋詰め工場を設置することが必要になるのですが、ロスは無くなるメリットがあります。



清忠丸の模型

◆宇部セメント独自の？

昭和 2 年、俵田明と中安閑一が欧米視察で見たベルトコンベアーによるバラ積み輸送に感銘を受けたのでありますが、更に技術革新を遂げています。エア（空気）の吹きつけによる積込を採用したのです。

◆もう一つ独自の理論

バラ積みセメントタンカーの「片荷輸送」です。帰りは空で帰ってくるのです。江戸時代の北前船を考えた場合、片道を空で帰ってくる不条理に誰もが違和感を持ってしまふような気がします。が、しかし、何も積まないことによって、早く帰って来られるメリットがあるのです。後に他社が見習っていることで理にかなっていることが想像できます。

宇部セメントだけの功績だとは申しませんが、後のセメント価格の均一化に寄与したことは議論を挟む余地がないことは間違いのないと思われれます。(西山)

〜〜「一枚の絵葉書から」〜〜

2021 年、宇部市は市制 100 周年を迎えます。大正時代の絵葉書を通して、当時のことを思い起こしてみませんか？

これは、絵葉書 8 枚セットのう

ちの一枚で「常盤公園櫻山門外（宇部名所）」とあります。現在のときわレストハウス辺りで、大正9年、木下芳太郎がサクラの木百数十本を植えて「櫻山」とし料亭、宿舎も建て、花見自動車も出るほど賑わっていました。



その櫻山入口の門に「サクラビール」の文字とサクラのマークが大きく写っていますが、現在は無い銘柄でずっと気になっていました。そして今春、新聞で「サクラビール復刻」の記事を目にしたのです。

【大正から昭和初期にかけて「サクラビール」のブランドで、福岡県大里町（現在の北九州市門司区）から世界に出荷されたビール。そ

のビールが復刻され、赤れんが造りの旧醸造棟の保存に一役買うことになった】と、朝日新聞は伝えています。

5月中旬、たまたま門司に行く機会があり、鉦滓煉瓦（こうさいれんが）建築で国の登録有形文化財である北九市門司麦酒煉瓦館を訪れました。そこで帝国麦酒(株)の歴史などの丁寧な説明を秋吉マネージャーから受けました。帝国麦酒(株)は1929年(昭和4年)にブランド名の桜麦酒へ社名変更し、1943年(昭和18年)に大日本麦酒へ合併されるまで製造されていました。サクラビールは製造中止になったものの、門司のビール工場自体はその後も存続。紆余曲折を経て1987年(昭和62年)までサッポロビールの門司工場として稼働していました。

ちなみに神戸の総合商社鈴木商店が援助した帝国麦酒(株)（後にサッポロビールと社名変更）の社長は、鈴木商店支配人の岡烈（おかれつ）で厚狭郡船木（現宇部市

船木）出身です。

隣接する七階建の旧醸造棟ではビール製造過程に従って、上から下へ生産されていたのだと聞き、興味深く感じました。

国際港、鉄道の要所でもあった門司から、第一次世界大戦中は、欧州のビール輸出が途絶えたこともあり、アフリカにまで出荷されていたのには驚きました。「精度高く芳醇なる香味、淡い琥珀色にて色沢鮮麗」のビールは人気があったようです。

330ml ボトルを2本買い求め、櫻山の絵葉書を思い出しながら自宅で味わってみました。正に「淡い琥珀色で麦芽の香ばしい、失われた大正のラガービール」でした。当時の人たちは、これを飲みながらサクラを愛でたことでしょう。時代は昭和、平成、令和と移り大正が遠くなりましたが、門司を訪れたことで、ひととき昔に帰った思いがしました。

余談ですが、大正13年3月、常盤公園へ花見自動車が運行。新川座前から公園まで毎日午前10時から午後六時まで、二時間ごとに運行。料金は二十銭。絵葉書で存在感を示しています。(脇)

## てくてくまち歩き&ときわ公園

通常は、9:50~12:00。真夏の7,8月は、お休みです。

日	企画名	集合場所	内容
6/22(土)	てくてくときわ公園	ときわ公園正面	動物園と植物館の花合わせ
9/28(土)	てくてくときわ公園	ときわ公園正面	芸術の秋！彫刻マップを片手に歩きましょう！
10/6(日)	てくてくまち歩き 14:50~17:00	宇部西リハビリテーション病院駐車場	「神輿が川を渡る?!」
10/20(日)	てくてくまち歩き	宇部市役所正面	宇部まちなかアート散策 A コース
10/27(日)	てくてくまち歩き	宇部市役所正面	宇部まちなかアート散策 A コース
11/10(日)	てくてくまち歩き	宇部市役所正面	宇部まちなかアート散策 B コース
11/17(日)	てくてくまち歩き	宇部市役所正面	宇部まちなかアート散策 B コース
11/30(土)	てくてくまち歩き	二俣瀬ふれあいセンター	伊能忠敬測量隊の歩いた道・山陽道を辿る
12/7(土)	てくてくまち歩き	JR 宇部新川駅前	新川校区の今と昔、ここには何があったかな？
12/14(土)	てくてくまち歩き	二俣瀬ふれあいセンター	伊能忠敬測量隊の歩いた道・山陽道を辿る

※10月~翌年3月までに「古地図を片手にまちを歩こう」が復活します。4、5回程度を予定していますが、期日については、後日お知らせいたします。スタンプラリーもありますので、ご参加をお待ちしております。

### ■申し込み、お問い合わせ

てくてくまち歩き

古地図を片手にまちを歩こう

てくてくときわ公園

宇部市観光グローバル推進課

宇部市ときわ公園課

TEL(34)8353

TEL(54)0551

FAX(22)6083

FAX(51)7205

「ドラマチック宇部！現代アートと維新の地を歩く」

4/7

琴 芝駅を出発し、桃色煉瓦の塀のある小路をぬけると、道路の向こうに広がる建物群の場所がかつて紡績所が立っていました。その一角に図書館はあります。敷地内にある「冬の子供」は宇部を文化漂う街に育てられた、故星出市長を顕彰し宇部市民有志により寄贈されたものです。

宇部の中心を流れる真締川周辺にも沢山の彫刻が設置されていますが中でも医学部付属病院前の「大首Ⅲ」は大きく、愛くるしく見開いた目が辺りをもっと見たいのか？首を被ねているのが吉野辰海氏らしいですね。



「大首Ⅲ」

桜の花がどこかしこと咲き誇りその参道の先は宗隣寺です。福原家の菩提所で14代から26代の領主が祀られて毎年11月第2日曜日に法要が営まれています。まつりのにぎやかさが聞こえてきました。ここが護国神社です。



護国神社の桜はほぼ満開

まずは「禁門の変」で自刃された越後公の碑と殉難者21柱の英霊にお参りしました。社殿は儀式中で傍の銅像を拝見させて頂きしばらくまつりを楽しみました。

午後からは鎌田の蛭子様と出雲大社宇部教会に行きました。蛭子様は広俊公が求められたもので大社近くの西宮橋の大岩

の上にあったそうです。西宮は厚東武光が八幡宮を遷宮し南の鎮守としたとありますが社殿は南に向き参道も真っ直ぐ真締川側にあったと聞きましたが納得できませんね。

その川の畔の桜は宇部市制の記念に植えられたものが一面に咲き私達の帰りを見守ってくれているようでした。(三輪)

「常盤湖畔に早春の花をさがそう」

4/13

参加者は16名、今回は「湖水ホールまでのコース」と「湖畔一周の健脚コース」に分かれました。

まず、集合場所のココランド近くの黒岩観音へ、道重上人が開いたことや、この地の奥から流れ出る水の一滴が常盤湖へ注がれることに興味を示されたようでした。



炭生あとの説明

桜の開花時期からずれてしまっていて、残念でしたが「御衣黄」「豆桜」などの珍しい桜の名前に驚かされていました。

ウグイスが啼き、芽吹き始めた樹々の間を散策しながら330年前の常盤湖の築堤の逸話、山炭生のこと、点在する野外彫刻などを楽しんでいただきました。



常盤湖畔の豆桜

「湖水ホールまでのコース」の方々とは青年の家の前でお別れし、約半数の「健脚組」は咲き乱れるチューリップやパンジー、牡

丹、芝桜に歓声が上がります。

気が付けば湖畔を一周していました。また、今回はふるコン新メンバーの彫刻ガイドのデビューの日でもありました。

「春の訪れと風が和らぐ、令和」目前のときわ湖畔の春を満喫しました。(安井)

てくてくまち歩き 「藤山の神社めぐり」 5/25

「日中は季節はずれの暑さです、紫外線や熱中症対策を」という予報のもと、28名の参加者は藤山ふれあいセンターの陰で体操と水分補給をして「藤山史跡まっぷ」を片手に2班に分かれて歩き始めました。

金山温泉跡、栄橋（栄川は埋め立てられ現在公園や駐車場になっています）を見て、三嶋神社へ行き、漁業や開作の歴史と独特のくどきに合わせた盆踊りに思いを馳せました。

鍋 倉山では藤山の発展に尽くした秋富久太郎・秋田寅之介の立像や栄川入江埋立記念碑を見て宮地嶽神社を参拝しました。

香川昌子裁縫塾跡、藤曲郵便局跡、その横の道を入った奥まった所の青木周蔵少年期の住宅跡（説明板あり）など見学。



西宮八幡宮前

西 宮八幡宮では野村彌宜からお宮の歴史「西宮えびす社+巖島神社+宇佐神宮=西宮八幡宮」を伺いました。扇石、藤曲村役場跡を見て藤山小学校の前の木陰で解散。

ガイドと一緒に歩いて初めてわかる史跡が多く、参加者の皆さんはそれぞれの興味で楽しんでおられました。(池田)